

北関東地域における子実トウモロコシ栽培に適する 品種の早晩性

子実トウモロコシ利用を想定した北関東地域での飼料用トウモロコシ栽培には、含水率の低下が早く、絹糸抽出 60 日後で収穫時期の目安（雌穂含水率 35%（子実 30%相当））に達する極早生品種と、より高い収量が期待でき、絹糸抽出 70 日後で収穫時期の目安に達する早生品種が適します。

☆ 技術の概要

1. 雌穂収量は、極早生品種（相対熟度（RM）93-100）に対して早生品種（RM113-115）と中生品種（RM125）は 16-28% 高く、早生品種と中生品種の絹糸抽出 70 日後の値は同等です（図 1）。
2. 極早生品種では絹糸抽出 60 日後に、早生品種では絹糸抽出 70 日後に雌穂含水率 35% 以下まで低下しますが、中生品種では絹糸抽出 70 日後でも雌穂含水率 35% 以下に達しません（図 1）。
3. 子実においても、早生品種は極早生品種よりも 22-32% 高収量で、極早生品種は早生品種より子実含水率の低下が早く、極早生品種は絹糸抽出 60 日後、早生は 70 日後に子実含水率 30% 以下に達します（図 2）。

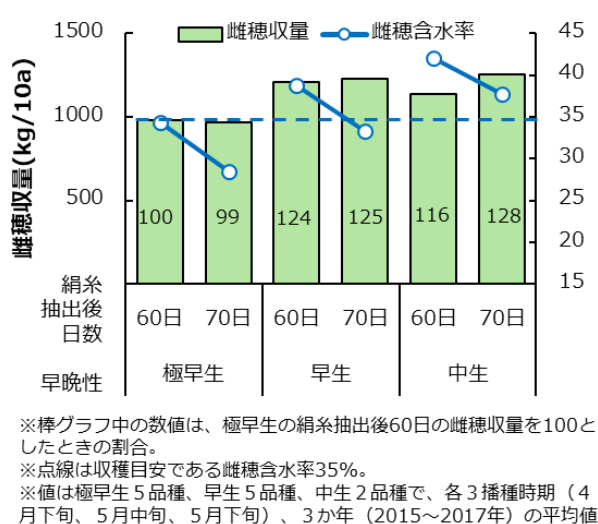


図1 雌穂乾物収量および雌穂含水率

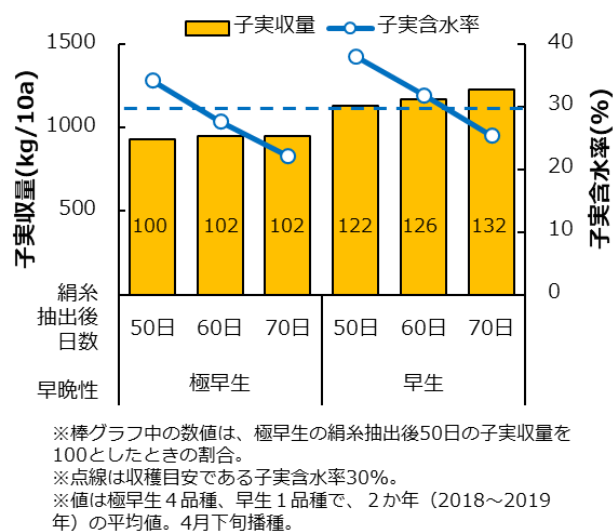


図2 子実乾物収量および子実含水率

☆ 活用面での留意点

本試験は農研機構畜産研究部門（栃木県那須塩原市）で実施しました。

（農研機構・畜産研究部門 赤松佑紀）